

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000396		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	アミコ愛・あい・大領(1階)		
所在地	大阪市住吉区大領5丁目5番24号		
自己評価作成日	平成30年2月14日	評価結果市町村受理日	平成30年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=2792000297-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にとって住みよい環境を心がけ、地域の行事にも参加しています。医療との密な連携がとれているので、健康面についても安心して暮らしていただけます。
1階フロアからいつでも出入りできる庭に畑があるので、季節の花や野菜を植え、水やりの習慣や収穫を楽しんでいただいています。昨年ベンチも設置したので、気候が良い時期には、庭で花を眺めながら気分転換をしたり、歩行の運動をしていただいたりすることもできます。
また、地域の行事に参加したり、ボランティアの方々に来ていただくことによって、地域との交流を心がけています。利用者様の毎月のご様子については、月報で家族様に詳しくお伝えし、写真を載せた新聞で、レクリエーションの様子もお知らせしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは慈しみの心を大切に、ゆとりを持って利用者の支援にあたり、日々利用者の笑顔が見られるようなことに取り組んでいます。地域との関わりにも力を注ぎ夏祭りや音楽会、餅つきなどの地域行事に参加したり、ハーブ演奏などホームのイベント時には地域の方に声をかけ参加してもらうなどの交流を図っており、何でも相談したり、話し合いのできる良好な関係を築いています。敷地内には畑や散歩ができるスペースを設け、ベンチを置いて外気浴をしたり、畑には野菜や花を植え、ベランダから自由に出入りができる利用者もいるなど、庭を有効活用することで閉塞感のない暮らしを提供しています。月1回発行の新聞を家族に送付したり、面会時には利用者の日々の様子を伝え意見や要望を聞くように心がけ家族との良好な関係が築けるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「笑顔・親愛・憩い」を基本とし、施設の目標である「慈しむ心で笑顔の毎日」を職員間で共有している。昨年より職員が増えているが、新入職者もそれぞれが笑顔を心がけており、実践できていると思う。	法人理念をユニット毎のフロアに掲示し、職員に意識づけを行っています。理念を基に目標を作成し会議や日々の業務の中で随時振り返りを行うと共に慈しみの心を持ちゆとりを持って利用者の支援にあたり、少しでも多く利用者の笑顔が多く見られるよう理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神社の獅子舞の方に毎年来ていただいている。地域の餅つきや音楽会、夏祭りなどにもできるかぎり参加させていただき、地域密着を心がけている。地域でボランティア活動をしている方々の受け入れも行なっている。	近隣の方と顔見知りになり、日々挨拶を交わし良好な関係を築くよう関わっています。運営推進会議等で地域の情報を得て、盆踊りや餅つき、音楽会等地域の行事に参加したり、祭りには獅子舞がホームで舞うことが恒例になるなど地域との関わりが深まるよう取り組んでいます。ホームでのハープ演奏会には近隣の方に声をかけ参加を得ており、大正琴演奏などのボランティアの来訪もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方が演奏会をしてくださる時に、ご近所の方もお招きし、施設の様子や職員の対応を見ていただいたりしている。また、地域の方からご相談があれば、その都度応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行ない、意見交換や情報収集ができています。事故報告なども行ない、いただいたご意見はサービスに活かすようにしている。	会議は家族や利用者、町会長、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催し、ホームの状況や活動、事故報告等を行い、意見交換をしています。事故防止等について話し合いアドバイスをもらったり、地域の行事案内等の情報をもらい利用者と一緒に出かけるなどサービスの向上等に反映しています。家族には毎回案内し、報告書は閲覧できるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことを相談しながら、協力関係を築けるよう努力している。	運営推進会議の議事録は送付しており、介護保険上等で分からないことがあれば電話や直接窓口に出向き、アドバイス等受けています。生活保護課の職員とは互いに行き来をし、行政から案内のある研修にはできる限り参加し協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について周知するようにはしているが、フロア全体に目が届きにくい建物の構造上、玄関は施錠をしている。また、転倒やベッドからの転落防止のため、靴や掛布団に鈴をつけていて、職員間でも様々な意見があるが、看護師の意見なども取り入れながら、対策を行なっている。	年1回法人主催の身体拘束に関する研修を受講し、参加できない職員に対しては資料を確認してもらい周知を図っています。また、日々の支援の中でも管理者やリーダーが拘束に関する説明を行い理解を深めており、不適切な対応があった場合は管理者等が注意をしたり、職員同士で注意をし合うこともあります。ユニット入口は施錠しており、外に出たい希望があれば散歩に出かけたり、ユニット毎の行き来や庭や畑に出て気分転換を図っています。	

アミコ愛・あい・大領(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議で虐待防止について周知し、職員の言葉や行動が虐待にあたらないか、気になることがあれば話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や安心サポートを利用している利用者もいらっしゃるので、関係者と連携を取り、円滑に活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重説や契約書にそって説明し、ご理解いただいた上で契約している。契約後、改定時、解約時なども、疑問点などがあれば、その都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、利用者やご家族から直接意見や相談をいただくことが多い。ご家族からは、面会時や運営推進会議で意見をいただき、いただいた意見は運営に反映させている。	利用者からの要望は日々の関わり中で都度聞いており、家族からはホームの新聞送付時や面会時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしています。面会簿の記入方法についてや職員の名前がわからないという意見を受け、面会簿記載の簡素化を図ったり、玄関に当日出勤の職員名を掲示するなど、得られた意見は都度反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案に耳を傾け、運営に反映できるよう努めている。	職員からの意見や提案は会議や申し送り時、日々の業務の中で聞いており、ケアの方法や入浴等、業務についての意見が挙がってきた場合は都度検討し、業務内容の見直しを行っています。必要な物品についての提案は会議で図ったり、法人に上げ購入に繋げています。備品やリネン等各担当者から意見が挙がることもあります。また、職員との随時の面談も行い意見や思い等を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回勤務状況などを報告し、給与に反映できるようにしている。また、公休数の増やすなど、職員が働きやすい職場になるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に研修を行ない、力量に応じて法人外の研修も受講している。また、職員は現場で働きながら、お互いの気づきや工夫の情報を共有し合い、それぞれの技術の向上に努めている。		

アミコ愛・あい・大領(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	住吉区グループホーム連絡会に参加し、情報交換や交流をしているが、勉強会や相互訪問等はできていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の担当ケアマネさんより引き継いだ情報を職員間で共有し、本人とコミュニケーションをとりながら、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で家族様から話を詳しく聞き、安心して入居していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様との関係性や入居前の生活状況を踏まえて、何が必要かを見極め、利用者本位で生活が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除をしたり洗濯物をたたんだり、できることはしていただくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には毎月報告書を送って様子を伝え、面会、外出、外泊がいつでもできるように支援させていただいている。運営推進会議に出席し、ご意見をくださるなど、ご協力くださっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいたところの近所の方など、友人が来られたり、以前から通っていたかかりつけ医で受診するなど、馴染みの人との関係性を大切にしている。	家族と一緒に墓参りや自宅に帰る際には、身支度などの準備をしたり、知人や友人の面会時には椅子やお茶の準備をするなどゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。以前に住んでいた場所へ出かけたり、ドライブの際に馴染みの場所を通った場合は車から降り、昔を懐かしんでもらうなど今までの馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	

アミコ愛・あい・大領(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルになりそうな時は、職員が間に入るなど、利用者同士の関係を把握しながらスムーズに交流できるよう支援している。また、ユニット間の交流も行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される時に、いつでも立ち寄っていただけるよう声をかけているので、近くの病院に通院される際に立ち寄ってくださる方や、他施設に移られても電話をくださる方がおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境や習慣を把握し、生活記録や毎月のモニタリング、日々の会話などから、本人の意向を読み取るよう努めている。	入居前に自宅や病院を訪れたり、ホームへ来てもらい、本人や家族から意向や生活歴、趣味などを聞き基本情報シートに記載し、思いの把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中で話を聞いたり、表情や様子を見る中で知り得た情報や気づいたことをカンファレンスで検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の情報も個人ファイルで確認できるようにして共有し、一人ひとりの思いを深く理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を把握し、残存機能を活かした生活ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当を決めてモニタリングをしたり、看護師や医師の往診時にアドバイスをもらったりしているが、家族様にも意見を聞けるのは限られた方になる。	本人や家族の意向、基本情報を基に介護計画を作成し、毎月支援経過を記載し6ヶ月毎に見直しを行っています。見直しの際は支援経過を基にカンファレンスで話し合い、事前に聞いた家族の意向や医師の意見を反映し現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画の達成状況確認のためのモニタリングや見直し前に利用者の状況を把握するための再アセスメントの実施に向けて取り組まれてははいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として日々の生活状況や気づいたこと、ケアの実践、結果を記録していて、職員は出勤時に必ず目を通すようにしている。		

アミコ愛・あい・大領(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望で、マッサージの先生を受け入れて来ていただいたり、自費でデイサービスに行けるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ボランティアの方に来ていただいたりして、楽しみを増やすよう努力している。区役所の催しなども調べて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の要望があれば、馴染みのかかりつけ医への通院に対しても、送迎や付き添いの支援をしている。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを伝えていますが、ほとんどの利用者が協力医に変更し月1回の往診を受けています。協力医は緊急時は24時間連絡可能となっており、訪問看護師を通して連絡し指示を仰いだり、随時の往診もあります。専門医への受診は家族が対応しており、必要に応じて職員が行くこともあり、口頭で結果報告を行い家族と情報を共有しています。歯科往診や口腔ケア、訪問マッサージは利用者の希望により受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に随時気づいたことを伝え、緊急の往診や受診に対応できるよう連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院なので、24時間いつでも対応してくれる。入院対応も早く、退院時にも相談員や医師と情報を交換し、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、担当医が時期を見極め、早めに家族との話し合いの場をもうけている。	契約時に看取り指針について説明し、家族の協力を得ることができるかについても確認をしています。現状では病院へ入院することが多く、看取り支援をしたことはありませんが、重度化した場合は医師から家族に説明し職員と三者で話し合い、再度意向の確認をした上で体制を作り取り組み、看取り支援を経験した職員から話を聞くこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練の際に急変時や事故発生時の対応を伝え、職員に周知している。各階にマニュアルを掲出し、迅速な対応を心がけている。		

アミコ愛・あい・大領(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火訓練は、年2回行なっている。地域との協力体制はまだできていないが、今後、消防署立会いの訓練時に近隣の方を招くなどして、互いの防災意識を高め、協力体制を築いていきたいと思っている。	年2回昼夜間を想定しホーム独自で通報の仕方、消火器の設置場所や避難経路の確認、利用者も参加し避難誘導等の訓練を行っており、運営推進会議で報告をしています。今後消防署の協力を得て訓練を行う予定です。飲料水や乾パン、缶詰などを備蓄しています。	地域の防災訓練に参加したり、地域住民に訓練の案内をし参加を得るなど地域との協力体制の構築に向け働きかけははかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、信頼関係を築くよう心がけて対応している。	管理者は会議の中で尊厳を大切に、慣れ慣れしい言葉遣いをしないように職員に周知しています。基本は丁寧語で対応し、名前は苗字で呼ぶようにしています。不適切な対応が見られた場合は管理者が都度注意をしています。入浴など羞恥心を伴う場合は希望があれば同性介助にて対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、自己決定ができない利用者に対しては、選択肢をあげて自己決定を促すような声かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われる日もあるが、できるだけ利用者の生活を優先し、希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服装にならないよう支援したり、訪問美容でカットやカラーなど、希望にそったヘアスタイルにしていだいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じメニューと一緒に食べている。準備ができる人はいるが、それを見て嫌がる利用者もいるので、片付けを手伝ってもらう程度にとどまっている。行事のおやつ等で、作る楽しみも味わっていただくように努めている。	食事は昼夕食は業者から食材が届きホームで作っています。足りない食材がある場合は利用者と一緒に買い物に行ったり、嫌いなメニューや食べにくいものがあればアレンジして作っています。行事食の場合は利用者の好みのメニューを取り入れたり、外食や弁当を取るなど楽しみのある食事を提供しています。また、ホームの畑で採れた野菜が食卓に上がったたり、ぜんざいやホットケーキなどのおやつを作りを楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の仕入れ先で、栄養士さんがメニューを作成してくれているので、栄養バランスのとれた食事を提供できている。食事量と水分量は毎回記録し、飲み物も飽きがこないよう色々な物を提供するようにしている。		

アミコ愛・あい・大領(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、介助が必要でない方にも声かけをして、清潔を保つようにしている。希望者は訪問歯科を受診できるので、義歯の調整や衛生管理もしてもらっている。週3回義歯の洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合った支援ができるよう工夫している。排泄の感覚がない方は、2、3時間おきにトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。	座位が取れる場合はトイレでの排泄を基本とし、排泄記録にてパターンを把握し、個々のサインも見逃さないようにトイレへの声かけや誘導をしています。其々に合わせた排泄用品や支援方法についてカンファレンスで検討し、退院後も元の状態に戻せるよう職員間で話し合いながら支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを摂取していただいたり、飲みやすいようにゼリー状のジュースを作ったりして、こまめに水分を補給していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事やレクリエーションなどと重ならないよう、一応曜日や時間を決めていた。限られた範囲内でしか希望にすることはできていないが、自分で曜日を決めている利用者もいる。	入浴は週2回を目途に日中に入ってもらい、回数を増やしたり、時間等については要望があれば検討するようにしています。利用者の状態によってはシャワー浴に変更することもあります。好みのシャンプーやリンスなども持参する方がいたり入浴剤を使用することもあり、ゆっくりと会話を楽しみながら入ってもらっています。拒否がある場合は職員を交代したり、家族に浴室まで付き添ってもらうなど、無理のないよう工夫をしながら入浴に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も体調に応じて部屋で横になっていただいたりしている。夜間は毎時間巡視を行ない、安全確認をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録に個人の服薬表を綴じており、薬や副作用について情報を共有する様になっている。症状の変化があれば、すぐに管理者に報告し、看護師や医師の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の水やりや洗濯物の取り入れなど、できることはしていただくようにしている。季節の行事やボランティアさんによる楽器演奏、地域行事への参加などで、楽しみを持っていただけるよう努めている。		

アミコ愛・あい・大領(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物に出かけたり、気候が良い時には散歩に出かけたりしている。本人の希望に合わせた場所へは、墓参りなどに家族と出かけられる方もいる。	少人数での散歩や買い物、地域行事への参加、ドライブなどの他、外食や初詣、桜の花見等外出の機会を多く作るようにしています。敷地内の庭や畑を散歩したり、ベンチで外気浴をするなど日々自由に入出入りすることができます。また、家族と食事に出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は家族様にお任せしているが、ご自身で管理が可能な方に関しては、通院の帰りなどに買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身の携帯で家族と連絡をとられている方もいるが、その他の方は、希望があれば施設の電話からスタッフがかけてご本人にかわったり、友人や家族側からかかってくる電話をおつなぎしている。年賀状を書かれる方には、ハガキの購入や投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の照明や室温は、快適に維持するよう随時調節している。ひな人形やクリスマスツリーを飾ったり、マスキングテープで壁に季節の図柄を描いたりして、四季を感じていただけるよう努めている。	共用空間は回路式になっており、自由に歩くことができ、随所にソファや椅子を置き好きな場所でゆっくりと過ごせるよう工夫をしています。雛飾りや七夕飾り、クリスマスツリーなど季節毎に飾りつけを行い季節を感じられるようにしており、加湿器や温湿度計を置き、利用者の体感にも留意しながら調整し、日々掃除や換気を行い快適に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは気の合った利用者同士と一緒にテレビを見て、テーブル席では新聞を読んだり趣味の塗り絵をする人がいて、窓際の席では一人で音楽を聴いている人がいる、といった様子で、狭い空間ではあるがそれぞれの居場所はできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みのある物や家具などを持って来ていただき、以前の生活から違和感のないような環境で過ごせるように、家族様とも相談しながら配置も考えている。	入居時に筆筒や姿見、仏壇、テレビ、ラジオ等の馴染みの物を持参してもらい、自宅と同じような設えになるよう家族が配置をしています。パソコンや本、孫や家族の写真等大切な物も傍に置き、その人らしく安心して暮らせるよう配慮し、日々換気や掃除を利用者と一緒に行い居心地よく過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では、転倒などがなく安全に生活できる配慮をし、部屋や靴箱がわかりにくい方に対しては、その方にとってわかりやすい目印をつけるなど工夫をしている。		